



メソポタミア考古学教育研究所 ニューズレター

8号

2026年5月

目次

報告1 第8回通常総会 (2025年7月27日)	2
報告2 イラク人招聘事業 (2025年11月22日～12月1日)	4
報告3 2025年度第1回勉強会 (2026年5月29日)	15
会員参加記1	17
会員参加記2	19



*JAPANESE-IRAQI INSTITUTE FOR
ARCHAEOLOGICAL EDUCATION OF MESOPOTAMIA*

報告 1

第 8 回通常総会

日 時 2025 年 7 月 27 日（日）14：00～16：00

会 場 藤沢市市民活動推進センター 会議室 A

出席者 対面 3 名 + 委任状 13 名 = 計 16 名

（開催時の正会員総数 20 名のため、総会は定款に則り正式に成立）

開会挨拶

小泉龍人代表理事より、総会当日 12 時時点で 2025 年度の会費納入を終えている正会員の総数 20 名のうち、Google フォーム・ハガキによる参加者申込者 13 名、会場出席者 3 名、計 16 名の参加者となり、過半数を超えているため総会が成立することが宣言された。

議長団選出・代表挨拶

議長に副代表の榊原智之理事、書記に山崎育子会員が選出され、承認された。小泉代表理事より、平素からの活動へのご協力に対する謝意と共に、メソポタミア遺跡マッピングプロジェクトの継続、及び 11 月予定のイラク人研究者数名の日本招聘、東京と京都でのシンポジウムを含めた国内事業の報告があった。テーマは、「地域社会と文化遺産」。イラク人の専門家や地元南イラクの人たちがシュメールの文化遺産の価値を知り、地域の目線でどう活用していくかといった突破口を掴めれば、としている。また、本年度の方針として、引き続き正会員の方々の各事業への運営企画などに直接的な貢献と、同時に活動趣旨への賛同を前提として、賛助会員の方々には主に資金面などで後方支援していただきたいとの挨拶があった。

議題

・第 1 号議案：2024 年度事業報告

活動 7 年目に入り、引き続き活動内容の質的および量的な改善を図ること、設立時に掲げた中長期的な現地調査プロジェクト（APSU）の実現を見据えた活動基盤の強化に取り組むこと、昨年度は現地状況等により代表のイラク渡航は実現し

なかったが、引き続きイラク関係者・関係機関との協働に努めていくこと等を勘案して事業活動に取り組むこととした。8 月・9 月にはイラク国内の社会調査、メソポタミア遺跡マッピングプロジェクトとして、京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科との共同主催によりワークショップを行った。教材用動画制作として、イラクの学生にメッセージ・ビデオおよび考古学集中講義用教材を制作、歴史教育の実践と日本とイラクの交流を図る。10 月以降の勉強会は早稲田大学他において開催され、12 月には駐日イラク大使館にてペワン・ザウィタイ臨時代理大使と小泉代表がイラクの教育事情について意見交換をした。1 月には佐藤寿一氏（「世界ふしぎ発見」プロデューサー）による講演が行われた。尚、会員数については、正会員は前年度比 3 名減の 33 名、また賛助会員は前年比 2 名減の 11 名、合わせて 44 名となった。

・第 2 号議案：2024 年度決算

収入の総額は 332,215 円、支出総額は 26,279 円、これに前期繰越金の 2,340,912 円を加えて、差し引き 2,646,848 円が今年度の繰越金であったことにつき、代表理事から説明があり、以上 2 件の議案が満場一致で承認された。

・監査報告

船引考悦監事より、事業報告書及び計算書類が適正であるとの報告があった。

・第 3 号議案：2025 年度事業計画

今年度は活動 8 年目に入り、過去 7 年間の活動成果を踏まえて、引き続き活動内容の質的および